

一、標章

一。本文「願事成就者」

一。願事成就とは、六要鈔四に云く

「願とは謂く願心、即ち論所列の智慧心方便心無障心勝真心の四菩提心なり。是を名けて願と為す。事とは謂く業事、五念門の行なり。是を名けて事と為す。此願行に依つて彼の国に生ずることを得。是を成就と名く。」

已上に依れば、願とは菩提の志願、即ち作願門のことである。名義撰対章に於て述べられたる智慧、方便、無障、妙樂勝真の四心を全うしたる菩提心を願というのである。事とは事業で、礼拝、讚嘆、作願、觀察、回向の五種の事業のこと、即ち五念行のことである。この願心と五念行と、心と行と分てば二なるも、行成ずれば心成じ、心成ずれば行成ず。この心成即行成を示さんとして、願事成就と名づけられるのである。成就とは、文には自在成就という。自在成就とは、報土の証果の成就するを謂うのである。願以て行を運び、行以て願を満す、かくして願が所求の事業を究竟成就するのである。已上は具徳に就いて弁ずるのであるが、もし衆生の機相に約すれば、願とは信心のことであり、事とは起行のことである。信の処には、必ず行を具す。大信一度決して、命延ぶれば、五念行を起すべき徳あるが故に、願行具足して往生の業事を成弁するのである。

一。今章の生起には遠近の二意がある。近くは今迄に明せる般若方便等の四心を承けて、願成就して、往生するに堪ゆることを明すのである。即ち論に「如是菩薩……能生清淨仏国土」とあるのがこれである。

遠くは、第二起觀生信章の「修五念門行成就畢竟得生安樂国土見彼阿弥陀仏」とあるのを承けて、五念の事成就して、彼土に於て、所作自在を得ることを明すのである。文に「是名菩薩乃至隨順法門自在業成就」というのである。

四心の願と、五念の事と、所願且く異なりといえども、建章の一心願生の功用を示すことは即ち一である。然れば、起觀生信已來を承けて願生淨土の業事成弁すること、明かすを今章の大意とするのである。行は願によらずば成就しない。願に行がなければ、願は無内容である。願によつて行は任運自在に成就する、願が所求の事を究竟成就する、その事を明かす章なるが故に願事成就というのである。